

○議長（小林哲雄）

再開いたします。

午後 1 時 3 0 分

○議長（小林哲雄）

引き続き、一般質問を行います。

4 番、下山千津子議員、どうぞ。

○4 番（下山千津子）

皆様、こんにちは。4 番議員、下山千津子でございます。

「町政とまちづくりに女性の視点をより活かすためには」の質問をさせていただきます。

平成 2 7 年 2 月 1 日に町制施行 6 0 周年を迎え、町では新たなスタートの年と位置付け、元気発信の新規事業をたくさん予定してございます。今年の広報「かいせい」2 月 1 日号によると、町の人口 1 万 6, 9 1 0 人のうち男性 8, 2 3 6 人、女性 8, 6 7 4 人となっており、女性が 4 3 8 人も上回っております。

平成 2 6 年 3 月会議で婦人会によるひなまつりを初めとするさまざまな取り組みの活躍状況を取り上げ、女性ならではの視点や配慮で町政において重要な役割を果たしていることを評価し、日本一元気なまちづくりにさらに寄与してもらうとの町長答弁がありました。また、今年の 2 月 1 日の町制施行 6 0 周年の式典においても、町婦人会の皆さんが作成した二つの大つるしびなに多くの来場者が圧倒され、改めて女性力のすばらしさが実感された思いがいたしました。

これまでのまちづくりを振り返りますと、また今後のまちづくりを進めていく上でも、女性の元気が町の元気を支えていると言っても過言ではないと感じております。第三次開成男女共同参画プランにおいては、職場や家庭、地域など、あらゆる場で男女がお互いの人権を尊重し、一人一人が生き生きと個性や能力を発揮できるような具体的な取り組みを示しております。

私は、平成 2 6 年 3 月会議の一般質問におきまして、「本町における男女共同参画社会の推進について」と題して質問をいたしましたが、今回は、より具体的な女性の活用策を伺います。1、前回の質問以降における女性の審議会などへの登用率の推移は。2、町内の女性団体など総合的に連携した活動をさらに活発化するための女性会議を発足するお考えは。3、開成町協働推進計画の実施展開において、地域福祉や子育て支援などの分野へ女性がより多く参画できる具体的な取り組みのお考えは。4、地域づくりに女性力を積極的に取り入れるお考えは。5、生ごみ処理機バクテリア d e キューロの普及に女性の力を活用しては。

以上、壇上からの質問といたします。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、下山議員のご質問にお答えします。

少子高齢化や子どもを取り巻くさまざまな課題の対応、地域経済の活性化、地域における課題解決に対して、女性の皆さんの力がどうしても必要だと私は考えております。男女共同参画の実現は、日本の将来を決定付ける最重要課題だとも考えております。開成町においても、第五次開成町総合計画及び第三次かいせい男女共同参画プランを策定し、社会のあらゆる分野において男女共同参画社会実現に向けたさまざまな施策の推進を図っております。

一つ目の前回の質問以降における女性の審議会等への登用率の推移について、まずお答えします。

審議会等における男女登用率の推移については、前回の登用率24%に対し、全体で27団体234名の委員のうち21団体61名が女性委員であり、平成26年度調査時点の女性登用率は26.1%となっており、約1年間で2.1%の登用率増加が図られました。

具体的な女性参画向上への取り組みとして、委員選出の方法を従来の指名型から、より広く人材を求めるため公募による選出枠を拡大することや、働く女性が会議に参加しやすいように夜間の時間帯に会議を開催するなど、女性を含め、まちづくりへの参画促進につながる環境改善を進めております。今後も、審議会等への委員選出におきましては、女性の登用率を向上させるよう努めていきたいと考えております。

二つ目の町内の女性団体など総合的に連携した活動をさらに活発化するために女性会議を発足したらどうかということですが、現在、開成町の女性団体は、婦人会や消費者の会、食生活改善推進協議会等を中心に、町のイベントや事業へ積極的に参画をされ、さまざまな分野で多くの取り組みがなされております。それぞれの団体ごとに目的や規模、活動内容等は異なり、これまでの活動においても、それぞれの役割が確立されている状況があることから、新たに女性会議等の大きい枠組みを組織し連携を促していく考えは今のところ持っておりません。

それよりも、それぞれの団体が持つ独自性や有意性を生かしつつ、個々の団体に欠けている部分があれば連携を促し補い合える機会提供を行っていきながら、個々の団体活動が充実をし活発化につながるような団体間の関係構築を橋渡しする役割を行政が担うことで活動を支援していきたいと考えております。既存の町民活動応援事業の推進や今後計画を進めていくサポートセンター設置など、各種事業を通して、これまで以上に団体活動の活性化を促し、必要な連携の形づくりを支援していきたいと考えております。

三つ目の開成町協働推進計画の実施展開において、地域福祉や子育て支援などの分野へ女性がより多く参画できる具体的な取り組みについて。

開成町協働推進計画に基づき協働のまちづくりに取り組み、地域の課題解決を図っていくには、女性はもとより団塊の世代を含めた高齢者、高校生や大学生を含む青少年等、全ての町民がまちづくりに取り組むことが求められております。協働をより一層推進し、誰もが主役で誰かのために支え合えるまちづくり、開成スタイルが築かれることが、女性が活動しやすいまちづくりにつながると考えております。協働を推進していくことにより女性が活躍できる環境を拡大し、あらゆる分野への女性参画を推進していきます。

四つ目の地域づくりに女性力を積極的に取り入れてはということについては、男女共同参画社会の実現には、より多くの町民の皆さんが地域で活動できるよう支援をするとともに、地域活動において男女が平等に参画できるよう働きかけをすることが必要であります。地域活動における課題が多様化・複雑化する中で、女性のきめ細かな視点や、地域情報を豊富に有し地域内外におけるネットワークの広さを生かした活動展開など、女性力を生かした地域づくりは今後もさらに必要性が高まると、地域に欠かせない貴重な力であると考えております。

開成町においては、既に女性によるさまざまな活動が精力的に行われており、今後も、あらゆる場面で女性の力を生かした取り組みを進めていきたいと考えております。なお、地域活動の中心的な担い手である自治会役員の女性の割合が低い傾向にあることから、地域活動における女性力の活用を促し、積極的に登用を働きかけていきたいとも考えております。

最後に、キエーロの普及に女性力を活用してはについてであります。生ごみ処理機キエーロの普及については、推進制度を設けて取り組んでおりますが、なかなか現状では進んでおりません。本年度においても、利用者は2件にとどまっております。こうした状況の中で新年度に向けてさらなる普及促進を図るために、予算を含め次の方策を今、計画をしております。

一つ目として、ベランダd e キエーロは、ベランダ用とはいいますが、かなり大きいし見ばえもよくないという声に対して、一回り小さなサイズのものや、ふたが平たんで本体に塗装を施した新製品のオシャレd e キエーロを制度対象製品に追加をしたいと考えております。

二つ目として、6,000円の負担金は高いという声に対しては、現行のベランダd e キエーロについては6,000円から3,000円に減額を考えております。なお、オシャレd e キエーロはベランダd e キエーロより購入価格が高いため、負担金は5,000円と考えております。

三つ目として、これが一番重要な取り組みだと考えておりますが、キエーロの周知の方策としては、職員が各地域に出向きまして実地に使い方や効果を説明をし、広めていきたいと考えております。

新年度の取り組み内容は以上のとおりであります。普及活動の対象としては女性、男性にこだわらず進めていく予定であります。ただし、その先に広がるためには、ご利用いただける方々による実体験からの口コミが効果があるのではないかと考えられます。中でも、隣近所、自治会やサークル、子どもの保護者会などの中で、女性の口コミパワーに大いに期待したいところであります。普及活動を進めるに当たっては、実際に使ってみて納得できたら、ぜひ周りの皆さんにもお勧めくださいと、口コミにより、より広めていただけるようお願いもしていきたいと考えております。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○4番（下山千津子）

一定の答弁をいただきましたので再質問をさせていただきますが、1 問目の女性の審議会への登用率の推移については、午前中に同僚の議員が同じ質問をしてございました。答弁をいただきましたので、私も理解させていただきましたので、問い 1 については省略いたします。

したがいまして、2 問目の再質問からさせていただきます。

平成 26 年 3 月に第三次かいせい男女共同参画プランが策定されております。この冊子には、最初に世界の動向が記載され、次に国、県、町の動きが記載されております。町の歴史をかいつまんで紹介しますと、「1991 年、平成 3 年に女性行政を推進するため教育総務課から企画政策課に移管され、開成町女性行政推進委員会が設置されました。また、同委員会の部会として開成町女性行政推進委員会検討部会が設置され、女性行政について全庁で取り組み体制を整備しております」とありました。平成 14 年に誰もがともに、あらゆる分野で参画する町を目指しかいせい男女共同参画プランが策定され、今日までの間、改正されつつ、女性行政の担当が自治活動応援課に移管されてまいりました。

そこで質問いたしますが、今から 24 年前の平成 3 年に女性行政懇話会が設置されておりますが、その設置により、女性がどのような活動をされて、どのような成果を得られましたか、お伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

それでは、お答えをさせていただきます。

1991 年に、女性行政を推進するためということで女性行政懇話会が設置をされました。こちらの懇話会では、男女平等の意識づくりと女性の参画につまましての提言をまとめられたと聞いてございます。事業といたしましては、男女共生のまちづくりの実現を進めるための開成かがやきフォーラム、女性で組織されました婦人会、消費者の会、食生活改善推進協議会、こちらの 3 団体が手を取り合いまして企画をされました、ごみ減量をテーマといたしました環境フォーラムなどの事業を推進されたと聞いてございます。

特に、女性団体 3 団体により主催をされました環境フォーラムにつまましては、ごみ減量化のテーマを通しまして女性のさまざまな意見を集約する場を女性自らが設定されたというようなことで、普段は発言に消極的な女性の方の意見も吸い上げるなどの効果は高かったのかなと考えてございますし、まちづくりに参画する入り口を女性自らが広げていただいたというようなことの中で、協働の取り組みに共通した効果が得られた先進的な事業であったかなというふうに考えてございます。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○4 番（下山千津子）

この女性の会の婦人会、消費者の会、食生活改善推進協議会は、現在も町や地域に大

変貢献した活動をされておりますが、24年前の資料を拝見しますと、「地球環境は地域から。今、私たちにできることから始めよう」というテーマを決めて3団体が連携され取り組まれた活動が神奈川県で高く評価をされ、県で事例発表をしております。開成町や私たち女性にとりましても大変名誉なことで、平成5年に新春座談会として町の広報にクローズアップされてございます。

現在、町では町民応援活動事業を推進されておりますが、平成24年度より3年間の期間、町民活動応援事業を始められてからさまざまな団体による財政支援をされておりますが、3年間にどのような女性による活動がございましたでしょうか、お伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

お答えをいたします。

町民活動応援事業に関しましては、平成24年度の開始以来3年間におきまして、延べ27団体の活動に支援をさせていただいております。その中の女性のみで構成をされました団体の活動を挙げさせていただきますと、まず女性の視点で防災を考える会「たんぼぼ」の活動が挙げられます。災害時の非常食レシピの考案ですとか女性の使いやすさに配慮した防災グッズの開発などに取り組まれておりまして、町内のさまざまな自治会や団体とも連携をされ、現在も活動が広がっていると聞いてございます。

このほかにも、子育て中の保護者の支援をされている子育てサークル、託児ボランティアですね、「こあらっこ」ですとか、防災意識向上、地域交流を目的として男の料理教室を開催しております牛島自治会の福祉部さんなどがございます。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○4番（下山千津子）

今のご説明をお聞きしますと、女性ならではの視点や配慮によりさまざまな活動が活発に行われており、大変意義のある施策と敬意を表します。私も、たんぼぼの会の活動は時代に合ったタイムリーな活動と受けとめております。

そこで、町長にお伺いいたします。先ほどのご答弁で、女性団体同士の連携した活動をさらに活発化するために、女性会議につきまして大きい枠組みを組織するお考えはないとおっしゃいました。女性会議という名前も少しかた苦しかったのかもしれませんが、過去の諸先輩方の取り組みに、先ほどもご紹介しましたように3団体が連携して、ごみの減量化をテーマにしたフォーラムを開催されたとのすばらしい事例がございます。先人の知恵を今再び、できなくはないと考えます。そこで提案でございますが、女性の活躍を応援する意味で、女性の参画を推進していく上でも、町の活動にかかわっておられる多くの女性を集めて、仮称「開成なでしこフォーラム」を開催したらいかがでしょうか。お伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

開成町に特に大きな女性の団体として、今、婦人会、消費者の会、食改善推進協議会の皆さん。先ほど下山議員が２月１日のときのお話もされましたけれども、婦人会は町全般の形として、つるしびなを大きく、この２年間をかけて６０周年を祝っていただくためにいろいろな準備をしていただき、今もひなまつりで活躍をしていただいている。消費者の会は、どちらかといえば消費関係で、エコバッグやごみの関係で、廃油また石けんをつくったりということで、環境に優しい消費者目線での活躍をしております。食生活の団体の皆さんも、２月１日のときに、お赤飯やデザートをあのときに準備をしていただいて、これも大きな評価を皆さんからいただきました。

女性の皆さんが元気で、この団体の皆さんたちが活躍してもらおうということがすごく大事だと思うのです。そういう中で、私も、その団体の皆さんといろいろなときに会ったり懇親会をしたときに出てくる話題が、やはり若い次に入ってくる女性が見つからないと。役員の皆さんも、だんだん高齢化をしている。確かに、女性の皆さん、元気でやっているのですけれども、若い皆さんが入ってきてもらえないという悩みがあるというのは大きな課題として聞いております。昨年、まちづくり町民集会でも、自治会の加入率ほか、自治会のあり方についてテーマを絞って町民集会をさせていただきましたけれども、やはり女性の会の皆さんの３団体に対してもそうなのですけれども、この課題解決に向けてきちんといろいろな検討をしていかななくてははいけない。

その中で、今、言われました、「なでしこフォーラム」でしたっけ、名称はともかく、やはり、それぞれの団体が抱えている課題を皆さんで話し合う機会、一堂に会して話し合う機会をつくるというのはすごく大事なのかなと。１９９１年の、今、過去の話聞かせていただいた中で、そういうこともやっていく。ごみだけの話ではなくて、女性の団体の皆さんが元気で、これからも活躍していただくためにどうしたらいいかという、そういうフォーラムは、やはり、これからも考えていく必要があるのかなと、今、下山さんの話を聞きながら思いました。特に、今年は町制６０周年という記念の年ですので、それにあわせて女性の皆さんが参画できるようなイベントを、まだ時間がありますので、２７年度の中で検討していきたいなと今は考えております。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○４番（下山千津子）

ただいま、町長から前向きなご答弁をいただきました。先ほど、仮称「開成なでしこフォーラム」と申しましたけれども、名前は親しみやすければ何でもいいと思うのです。ざっくばらんに発言できる、例えば、自分が所属する団体の内容とか活動成果を紹介し合ったり、お互いの情報交換をしたり、連携するきっかけづくりをしたらいいのではないかなと思ってございます。また、近年では行われていなかった女性同士の、先ほども町長がおっしゃいましたけれども、交流を深める機会になるのではないかと思います。

歴史ある団体でも、若い会員の方が入会されないで高齢化が進んでいるようなことも

多々、耳にいたします。「開成なでしこフォーラム」で高齢化問題などを取り上げてみるのもよろしいのではないかと考えてございます。長い間、地域や町に貢献していただいている団体の存続も、町にとりましては大きな課題ではないでしょうか。このような諸課題の解決策にもなるのではないかと考えております。ぜひ、よろしくお願いしたいと思います。

次に、3問目の再質問をさせていただきます。

第三次かいせい男女共同参画プランには、小学校、中学生を対象とした意識調査の結果が掲載されてございます。その調査結果を見ますと、児童や生徒の男女共同参画に対する意識は、それほど高くないように思われます。男女共同参画プランでは、意識の形成には幼少期からの働きかけが欠かせないと記載されてございます。学校教育におきましては、どのような対応をされておりますでしょうか、お伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

教育総務課。

○教育総務課長（橋本健一郎）

では、学校での取り組みについて説明したいと思います。

まず小学校ですけれども、小学校の3、4年生に関しましては、体育の保健の学習、こちらにつきまして、子どもたちは育ってまいりますので、育ち行く体と私ということで身体の関係ですね、そのことについて特に学習をしております。また、6年生の社会では基本的人権の尊重等ございますので、その中で女子の差別撤廃条約ですとか、あと男女の雇用機会均等法などの、そういったことについて触れて学んでいるところでございます。あと、5、6年生でも家庭科がございますので、そちらで男女隔てなく、いろいろな調理ですとかボタンつけ等を行っております。

同じような形で、中学校でも憲法について学ぶ中で、いろいろところで基本的人権の尊重ですとか、今、出ております男女共同参画の基本法などについて学んでいるところでございます。

ですから、子どもたちにつきましては、なかなか意識はしていないと思うのですけれども、教科の中では、そういったことで男女についてのものを学んでおりますので、知らないうちに学んでいると言っただけは何なのですけれども、そういった形で、意識がされるようなことはなかなか難しいと思うのですけれども、教育の中では、そういった形で男女共同参画の意義について学んでいるところでございます。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○4番（下山千津子）

今、教科の中で男女共同参画の授業を子どもたちに受けさせているとお聞きしましたけれども、そういった中で、子どもたちの実際、声とか、そういうものは、お聞きしたことはございますでしょうか。

○議長（小林哲雄）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

ちょっと質問の意味がわからないので当てが外れるかもわかりませんが、子どもたちにとって男と女を意識するかしないかというのは、発達の段階で意識するわけですので。今、小学校１年生から男女共同の出席簿、いわゆる混合名簿というのを使っておりますので、むしろ男と女が別なのだよという意識を目覚めさせるというか、その時期は、先ほど課長が説明しましたように、３年生、４年生ぐらいに性差があらわれるころに、少しずつ男と女の違い、しかし人間として同じだよという教育をしていくわけですから。

今、議員がご質問の意識、感想とかという質問ですけれども、それぞれ授業をやれば感想は全て持つわけで、先生はその感想に基づいて新たに不足している部分を指導していくという形をとりますので。先ほど授業と言いましたけれども、学校は教育課程全般の中でそういう思想の教育はしていくわけですので、特に道德の授業の中では、男女共同参画と同じように、男女は違って当たり前なのだよ、違いがあるのだよという教育の中で進めています。

ただ、現在、非常に難しい状況の中で、渋谷区のように同性婚を認めるとか性同一性障害があるとか、非常に学校の現場としても男女が別なのか同じなのか、ともに、その性差というものを指導したほうがいいのか、非常に先生方が苦労しているというのが現状です。ぜひ、公開授業等があるときに子どもたちの様子を見ていただきながら、やはり４、５年生になると男女の差が出てくるのだなということもご理解いただけると思いますし、中学校になりますと、やはり発達の差がありますので保健体育は別々の授業という形をしながら、それぞれの性差の尊重ということを教育の中でしていますけれども。片や、技術家庭という、皆さんが学んだころには男は大工もの、女はお裁縫というふうに分かれていたものが、全て同一の教育課程の中で男女の差をなくして同じなのだよという教育を教育全体の中で進めていますので、なかなか、そのところを、男が女を尊重し、逆に性差の違いを尊重するということが非常に教育上、難しくなっているというのも事実です。

教育の中で一番、そのところは解決していかなければならないと思いますので、いろいろな教材を入れながら、男女の違いを認めながら尊重するというのを、非常に難しいのですが、今、進めているというのが現状でございます。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○４番（下山千津子）

ただいま、ご答弁で、４、５年生から男女の差が出てきて、先生方も大変ご苦労されている様子がわかりました。男女の差を調整しながら、今後とも開成町の子どもたちによりしくご教示いただければと思います。よろしくお願いします。

次に、行政では協働のまちづくりを進められて、昨年には協働推進計画を策定されました。私も、男女共同参画社会の実現には協働の考え方が必要不可欠だと考えてございます。男女共同参画プランにも、町民、事業者、行政が協働でプランを推進していく必



要があると記載されてございます。そこで、開成男女共同参画推進プランボランティアについて、お聞きいたします。

平成14年から毎年、「かけはし」の名前で情報誌が発行されてございます。平成16年3月には女性模擬議会を開催されており、当時の教育長のお言葉に、「行政は、ややもすると前例、慣例、先例などで踏襲しているところがあります。皆さんの指摘には、頑迷固陋にこだわらずに真摯に取り組み反映させる必要がある」と述べられております。

また、平成19年3月の情報誌には、ボランティアメンバーから「町政に女性の声を積極的に生かすための参画を推進していますが、ただ会議に出ているだけでは意味がありません。その場に合った発言ができるかどうかの問題である」ということで、女性の人材育成の具体的な方策を当時の町長にお聞きしております。そのところで町長のお答えの中に、「女性の資質、能力の問題というより会の進め方、コーディネーターの配慮に力点を置くべきで、進行役がいかに発言を引き出すかに配慮すれば、男女を問わず有益な意見を出す方はたくさんいるはず」と答えておられます。私も、そう感じております。

町では、これからも新規事業や仕組みづくりに取り組まれるわけでございますが、男性社会の中で企画立案から女性が意見を言える、求められるという仕組みづくりを検討されるお考えはございますでしょうか、お伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

お答えをさせていただきます。

先ほどの町長の答弁にもございましたとおり、男性、女性の社会という考え方ではなくて協働によるまちづくりを進めていくというようなことで、誰もが主役で、いつも誰かのために支え合えるまちづくり、開成スタイルが築かれること、これから町民の皆様が活動しやすくて、さまざまな意見を言いやすい社会が形成されるものと考えております。協働のまちづくりを今後、より一層推進していくというようなことで、地域の仕組みづくりを促していくような対応をしてまいりたいと考えてございます。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○4番（下山千津子）

ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。

先ほどの「かけはし」の発行でございますが、現在ではボランティアメンバーも少ない人数での活動にとどまっていると聞いてございます。女性の視点でまちづくりを進めていくためにも、このようなボランティアとして活動される方を積極的に増やされてはと思いますが、どのようにお考えでしょうか、お伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

お答えをいたします。

現在、ご指摘の男女共同参画推進ボランティアにつきましては、4名の方で運営をしていただいております。主な活動といたしましては、例年12月に開催をしてございます男女共同参画講演会の企画・運営、それと年に一度、全戸に配布をさせていただいております男女共同参画の啓発情報誌「かけはし」の作成にご協力をいただいております。ご指摘のとおり、過去には多くの参画をいただいて女性模擬議会の開催などをしていただくなど、幅広い活動をしていただいたというようなこともございます。町といたしましても、必要性については十分に認識をしておりますので、公募をはじめといたしまして今後、幅広い団体、個人の方にお声かけをしながらボランティアの皆様の参画を促していくというようなことで、徐々に数を増やしていくような活動を進めてまいりたいと考えてございます。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○4番（下山千津子）

先ほども提案させていただきましたが、横の連携が女性同士にできれば、そういう問題も解決していくのではないかなというふうに私も今、お話を伺いまして考えましたので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

続きまして、地域活動の中心となっている自治会でございますが、自治会長や副会長に女性はおられません、残念ながら開成町では。答弁では、先ほどもお聞きいただきましたが、積極的に働きかけていくとのことでしたが、具体的にはどのような対応をされるのでしょうか、お伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

お答えをさせていただきます。

県内におきまして、女性の自治会長におかれましては210名ほどいらっしゃいます。足柄上地区1市5町におきましては、今年度で、平成26年度におきましては、南足柄市に1名、大井町に2名いらっしゃるということで伺っております。

開成町におきましては、昨年度より地域の人材育成支援といたしまして地域リーダー育成研修会を開催してございます。研修会には2年間で177名の皆様にご参加をいただき、防災や自治会運営のノウハウ等について知識を深めていただいたところでございます。他県や他自治体では、さまざまな自治会の運営に多くの女性が活躍をされているというような状況もございます。この研修を通じまして、講師にそのような方々においていただいているというような状況もございますので、今後、こういう入り口、研修会等の機会を捉えていただいて、女性の方にもこのような研修会の参加を促していくというようなことで、さまざまな地域で活動されている女性リーダーたちと交流を深めていただく中で、町内においても女性リーダー育成に努めてまいりたいと考えてございます。

また、自治会長の改選等に当たりましては、どこの地域におかれましても、なかなか

改選時の人選が難しいというような声もお聞きしてございます。女性リーダーが増えていくというようなことになれば、このような課題解決にもつながっていくというふうに考えてございますし、これから自治会長をはじめ自治会の皆様とも、いろいろな課題を課題として投げかけを行いながら、そういうふうな好影響があるようなことについては自治会と協力をして、連携をして課題解決を図ってまいりたいと考えます。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○４番（下山千津子）

ただいまのご答弁で、改選時の人選が大変難しのご答弁いただきました。私は今回、いろいろなところに聞き取りをいたしましたら、平塚で自治会長に女性がいらっしゃるということで、大変すばらしい自治会長というふうにお聞きしております。ぜひ、近々には、その自治会に行って女性会長にお会いしたいと思っております。

やはり、私も今回、同じ地域で自治会の三役が変わるということで、ぜひ女性をと思って努力はいたしましたが、なかなか女性の意識改革ということも大変重要でありまして、そういう意味での、今、自治会館とか、そういうところでの育成をしていらっしゃるということです。今後期待していきたいと思えます。

では、次の質問に入らせていただきますが、町では女性が活躍するメリットをどのようにお考えか、お伺いします。

○議長（小林哲雄）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

お答えをいたします。

地域の課題解決におきましては、行政だけでは対応できないというような部分が数多くございます。町民や企業の皆様と協働してまちづくりに取り組んでいくというような必要性につきまして、自治基本条例ですとか協働推進計画を通して皆様にお話をさせていただいているというところでございます。地域課題がさまざま多様化等をしていく中で、女性のきめ細やかなセンスですとか話題の豊富さ等につきましては、女性の持つ特性をまちづくりにぜひ生かしていただきたいと考えてございますし、それが地域の活性化に大いにつながっていくのかなというふうに考えてございます。

町といたしましては、女性だけが浮き上がるようなまちづくりではなく、誰もがまちづくりの主役となり得る環境をつくっていくようなことで、誰もが活動しやすい環境をつくるというようなこと、その中で女性に活躍をいただくというようなことで町全体のメリットとなっていけばありがたいというふうに考えてございます。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○４番（下山千津子）

私は、女性の思いやる気持ちや気配りなどが、その場を明るくしたり元気にすると考えてございます。「女性は実に太陽であった」と、日本で明治から昭和にかけて活躍さ

れた女性社会運動家の平塚雷鳥の言葉でございますが、母性は育てる力があり、そこには希望とか明るさがリンクする力があると言われてございます。ぜひ、そういう意味でも、地域の活性化に自治活のほうで頑張っていただければありがたいと思います。

5番目の生ごみのキエーロの再質問をさせていただきますが、私は、生ごみは庭に少しずつ埋めておりますので、年間を通してほとんど出しません。町が普及推進に取り組んでいるので、まず自分で使ってみなければわかりませんので、自分が理解したら広めようと思い購入いたしました。まだ使って2カ月ですが、職員が、ただキエーロを置いていだけで、「後でビデオを見て使ってくださいね」、そういう説明だけでは不親切ですし、使ってみるといろいろと問題もございます。導入された経緯は、成功している市に視察に行かれたり、いろいろと検討された上で導入されたと聞いてございます。では、なぜ開成町で普及していかないのかは、おのずと答えが出ます。

提案ですが、家庭で料理をするのは女性が多いので、女性の団体のところとかグループのところに出向いて実際に使っている方に説明をしてもらう、その場で質問があれば、使っているわけですので、お答えができるわけです。このような進め方はいかがでしょうか。先ほど答弁にもございましたように、現場に今度は出て行って普及活動をされるということなのですが、これも一案になるのではないかと思います。

○議長（小林哲雄）

環境防災課長。

○環境防災課長（秋谷 勉）

町長答弁の中でもお答えをしておりますが、次年度は、さらに普及促進のために力を入れて地域に出向こうと思ってございます。また、これは特に自治会と限定したわけではなく、地域に出向いたときには、もちろん先ほど来、出ております婦人会なり消費者の会、また食生活改善の推進会議のほうにもお声をかけさせていただいて、より多くの方に、まずは知ってもらって、その効果をお伝えしたいと思ってございますので、この辺は十分に計画してまいりたいと、お声がけをさせていただきたいと思ってございます。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○4番（下山千津子）

ご答弁の中に、来年度から、4月からですけれども、キエーロは6,000円から半額の3,000円になるというふうにご答弁いただきました。私が考えるところに、自分が使ってみてわかるのですが、町の集会施設は啓発のため提供されたとお聞きし、また現場を見たり自治会の方にお聞きしましたところ、ほとんどの自治会では機能してなく、生ごみでない枯葉を入れているところもございました。ある町民は、聞き取り調査をしましたところ、税金の無駄使いと大変厳しいお言葉を言っておりました。これも説明不足の結果だと思います。

バクテリアd e キエーロは、人間が食べたいいわゆる残飯を食べて、たい肥にするという仕組みなので、集会所では福祉関係の集まりのとき、女性が集うとき、女性は地域などで横のつながりが豊富でございますので普及活用の展開は早いと考えますが、いかが

でしょうか、お聞きいたします。

○議長（小林哲雄）

環境防災課長。

○環境防災課長（秋谷 勉）

確かに、ご指摘のとおり自治会のほうに展示させていただいておりますが、そちらについて、自治会ですから、今、議員が言われたとおり、生ごみが出る機会というのはそれほど多くございませんので、有効に活用している姿というのは見せられていないというふうにも思っております。箱の大きさですとか外観を見ていただくというところにとどまってしまっているのが現状でございます。繰り返しになりますが、新年度におきましては、職員がその辺の使い方やら効果を具体的に示せるように、お話ができるように、また発案者で製作者の方のご指導も受けながら積極的に取り組んでいきたいと考えてございます。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○４番（下山千津子）

ぜひ、よろしくお願いしたいと思います。

かいせい男女共同参画プランの目標は、誰もがともに、あらゆる分野で参画する町の実現となっております。開成町は、町・町制施行60周年を迎え、南部地区の完成も間近となり、今後も多くの皆様を住民に迎えることとなります。このようなタイミングですので、人と人とが交流する機会や町民同士の横のつながりがとても大切だと考えております。私は、今回の一般質問をするに当たり、たくさんの人にお世話になり、聞き取り調査をさせていただき、資料も提供していただきました。その中で再認識した言葉がございます。「人間は、やらされるときは何とか逃げ口を考えたくるものですが、自分が意識を持って取り組んだとき真の結果が出るものです」と。

「町政とまちづくりに女性の視点を、より生かすために」のテーマで議論をさせていただきました。二十数年前、高く評価された事例の話も伺いました。今は時代が違うから難しいと諦めるのではなく、次代を担う子どもや孫に開成スタイルで女性力プラス男性力もいただきつつ、町民の皆様の元気、健康のために行政がリーダーシップをとっていただきたいと思います。これで私の質問を終わります。